



石狩地域森林ふれあい推進センター

今回は、当センターが実施している森林教室における新たな視点での取り組みについて紹介いたします。

2020年から全面実施される次期学習指導要綱の目玉の一つに、学ぶ側である生徒に主体性を持たせ、理解の質を高める効果が期待されている「能動的学修」の導入があります。

センター実施の森林教室においても、森林の中で子供たちが自らが課題を見出し、自らがそれを解決するための必要な「能力・姿勢」を身につけることを目的に、札幌市内にある定山溪中学校において能動的学修を実践してみました。

定山溪中学校は、札幌市の水源地域にある自然環境に恵まれた学校です。これまで、センター実施の森林教室の中で、環境保全のための調査・啓発活動、ポット苗植樹・生育調査等を実施してきていますが、これらはセンターでプログ

ラムを作成した上で、テーマを与えるなど、どちらかと言えば、教える側が主体である受動的な学びでした。

中学校からも「学校の近くで自由な発想で本物の森づくりが体験できる場所が欲しい」との要望があり、学校から約1kmのところにある国有林内に活動地を設定しました。この場所は建物敷地跡で、面積は約0・三ヘクタールです。



ゆめの実現に向け汗をかく

雑木や大型草本が繁茂し、国有林においては「除地」となっており、森林施業に関する規制が少ないことから自由な発想で森づくりができます。この活動地を生徒たちは「ゆめの森」

と名付けました。

この取り組みに当たって①生徒の主体性を尊重、②発見や気づきを重視、③自由な発想を妨げない、との基本方針を定めました。そのため、センター職員自身もこれまでの森林づくりの基準にこだわらない、生徒へのアドバイスは必要最小限、実施プログラムは作成しない等、これまでは異なる対応で臨みま



インターンシップの学生と一緒に森林づくり

生徒たちは、どのような森林を目指したいかを考え、自らの森林のイメージを絵にしました。

それぞれのイメージを実現するために何をすれば良いかを話し合った結果、まずは歩道が必要と気づき、歩道の作設・測量・

図化を行いました。また、自らの発案で、ゆめの森の看板設置、動物及び昆虫調査を実施しました。



JICA 研修の世界各国の方々と交流

更に、札幌工科大学のインターンシップ、JICA研修の場としても活用し、植樹も行い、エゾシカ被害調査や防護ネットも設置しました。

これら能動的学修により、学ぶ側である生徒は、自らが体験で学び、自らが判断し、仲間と協働で活動することができました。

教える側のセンターでは、体験のおもしろさ・課題に気づかせ、生徒の活動を引き出させることができました。

今後ともティーチャーとしてだけでなく、コーディネーターとしての役割を意識し、しっかりと見守っていきたいと思います。